

【熊本日新聞社賞】

ノリ博士と僕の誇り

宇土市立網田中学校 3年 中嶋 大空

「自分でもやりようによってこんな立派な人物になれるのだろうか」

これが、僕が「ノリ博士の信念」を読んで最初に感じたことでした。さらに、太田さんが私たちと同じ年の頃、何を考え生きていたのだろうか、どうすれば太田さんのように人のために努力できるのか、そんなことを考えながら、僕は授業を受けていました。

太田扶桑夫さんは、生態が不明で養殖が困難だったノリの人工採苗の方法を開発した方です。自費を使い、実験に粘り強く取り組んだ結果、今も多くの人々に恵みをもたらしています。また、特許を取れば莫大な利益になったはずなのに、苦勞に代償を求めず、人工栽培をもっと普及させるために、多くの時間や労力を注ぎました。そして、全国に養殖ノリの生産法を広めた後も、海苔に携わり続けた方です。

僕の家は、祖父の代から海苔の養殖業を営んでいます。僕が幼いころから、父母、祖父母が交代で午前0時頃に海へ出て、海苔の回収をしたり種付けをしたりしに行きます。そして、朝に帰ってくるという生活でした。小さい頃は、寝ようとしていた時に玄関の音が聞こえて「仕事に行くんだな」と考えていたのを覚えています。

太田さんの偉業を、海苔屋である父や祖父は知っているのだろうか、と僕は思い尋ねてみました。すると父と祖父の二人共が「太田さんは現代のノリの養殖方法を開発した人で、海苔屋として尊敬している。」と話してくれました。その後も、太田さんが成し遂げた偉業に関する感想などを、とても楽しそうに熱弁していて、太田さんを尊敬しているという言葉が本当なのだと感じました。僕は「うちのノリが一番うまい」と思わず先生に話したことがあります。それくらい祖父母や両親が作るノリを誇りに思っています。太田さんがいたからこそ、僕の誇りも存在するのだと実感しました。

学習をしたり家族の話の聞いたりして、太田さんは多くの人に感謝されていて、今でも尊敬されているのだと思いました。そして最初に読んだときに考えた時と同じく、僕も太田さんのようになるにはどうしたらいいか考えました。まずは、人の役に立つことを考え、それを行うことが第一歩なのだと感じました。だから僕は、自分にできる人の役に立てることを見つけようと思いました。今の僕にできることは、身近にある係の仕事や掃除を丁寧なことにすることだと思います。そしていつか、太田さんのように優しく多くの人を助け、尊敬される人を目指して努力していきたいです。